

城山エコミュージアム通信

令和元年（2019）8月15日 第36号

エコミュージアムとは、エコロジー（生態学）とミュージアム（博物館）を合わせた造語で、その地域そのものが、生きた貴重な資料であるという考え方の下に、地域の歴史や文化、自然について学び、地域への愛着を深め、交流を深めていく活動です。



縄文時代から令和へ

～川尻石器時代遺跡からのメッセージ～

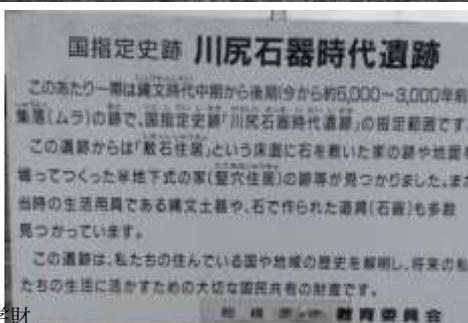


国指定の草原



勝坂式土器

（かながわ考古学財



左の「草原」の下には古代人の生活の跡が詰まっています。昔から「石塚」の地名があった谷ヶ原のこの地に科学的な調査が始まったのは昭和初期（一九三〇年頃）からです。以来度々発掘研究がなされてきました。

その結果「川尻石器時代遺跡」とその周辺は旧石器時代から近世に至るまでの多数の遺跡が確認されています。

中でも谷ヶ原の「川尻遺跡」は旧石器時代にはナイフ型の石器文化、縄文時代には草創期から晩期まで出土しています。中期には竪穴住居が50軒ほど確認され、後期には配石墓20基、晩期には掘立の柱建物址が確認されています。「川尻遺跡」の特色は遺構や建物により草創期から半期まで総ての時期の生活の痕跡があることです。



左上の写真は「川尻遺跡」に隣接する「谷ヶ原浄水場」の工事に伴って発掘調査した時に出土した縄文時代の「勝坂式」土器です。「勝坂式」土器について國學院大學の小林達男教授は、平成十五年に『勝坂遺跡のある風景く遺跡をイキイキさせるには』の基調講演で次のような趣旨を語っています。

「縄文人の世界観というか、信念をそこに表現しようという意気込みが、はっきりと窺われるこんなすばらしい土器です」

そうした遺跡のある所に住んでいる私たちは、遺跡を子々孫々に伝える大切な勤めがあります。

（樋口 孝治）



今回のトピック ■縄文時代から令和へ ■しろやまミニ図鑑「庁舎のレリーフ」

■活動報告 ■城山検定 ■インフォメーション（ツアーのお知らせ）

レリーフ 庁舎外壁の浮彫



城山総合事務所（旧城山町役場）庁舎のほぼ中央に赤茶色のレンガの外壁があり、さまざまな形の浮彫（レリーフ）があります。

昭和 55 年 5 月 5 日役場庁舎誕生とともにこの外壁も生まれました。

浮彫の内容は、美術品でいえば国宝に相当する国が守るべき史跡の一つ「川尻石器時代遺跡」から発掘された石器や土器を図案化したもので、発掘、調査には地元の人たちも参加しています。私たちの地域には数千年の昔から人が住み、それぞれの時代を生きてきたことを地域の人たちの誇りとして末長く伝えたいという意図が強く感じられます。

当時は県下の青少年の人口が急増し、県は県立高校の「百校建設計画」を進めており、長州一二（ながす かずじ）県知事が建設に当って建設費の 1% を「文化的な薫りのあるものに使ったらどうか」という「文化 1% 論」を県下の市町村にも推奨していました。城山町も役場庁舎の建設に当り、県知事の考え方に呼応したものです。城山町 50 年間の歩みの中で、後世に伝えるべき唯一の文化遺産として昭和に生きた人たちが令和の私たちに示した貴重なかけがえのない遺産です。（山口 清）

〈レリーフに刻まれたことば〉

この浮彫りは城山町内から出土した縄文時代の石器、土器の文様をもとに構成したものである。

数千年の昔から清冽な川の流れと緑豊かな台地の上に人々は集い、村をつくり、のびやかに力づくよく生きつづけてきた。

今、私達はこのふるさとの自然を守り、さらに住みよき子孫に誇れる町づくりをめざして、ひとりひとりの力を結集していきたい。

活動レポート



〈城山公民館まつり 出展〉



平成 31 年 3 月 9 日（土）10 日（日）城山公民館まつりに、年度の城山エコミュージアムツアー「小松城 伝説の里をく」の内容と龍籠山からの大パノラマ写真を展示しました。パノラマ写真は、森久保委員が日々撮りためたもので、解説あってわかりやすく特に好評でした。（金子 直美）

〈2019年度城山エコミュージアム委員会全体会開催〉

4 月 14 日（日）城山公民館にて開催された全体会では、委員会の前年度の事業報告と 2019 年度の主催行事や、出展・ガイド協力、広報活動などの年間計画が話し合われ、19 年度の事業計画と予算が承認されました。（田畑 房枝）盛況を修める

〈新磯公民館成人学級に講師派遣とガイド〉



新磯公民館 講義



久保沢観音堂

過日、市内南区新磯公民館の成人学級から依頼があり、城山エコミュージアムの活動について紹介しました。

まず 6 月 13 日（木）に塩谷委員長他 4 名が先方に出向き、エコミュージアムの考え方と日ごろの活動をプレゼン、先方参加者は 25 名ほどでした名ほどでした。

6 月 27 日（木）には先方から 21 名が来館し、久保沢⇒谷ヶ原⇒津久井湖までのコースを実際に案内し、大いに参考になったとの感想をいただきました。

城山エコミュージアムのつどい

を開催しました

2 月 10 日（日）城山公民館にて、第 4 回の表記研究集会を開催しました。今回は相模原市立博物館学芸員の河尻清和氏に、「丹沢衝突！南から来た海底火山」と題して講演をいただきました。普段は意識することのない足元の大地の成り立ちを理解することができました。また、委員会からは平成 30 年の活動報告を行いました。昨年以上に多くの方々に出席（一般 64 名、委員 14 名）していただき、盛況裡に終わることができました。（佐々木 徹）



問題 これは何の写真？

葉山島を散策中、茶畑周辺に高さ 5～6 m の所にファンを付けた柱が何本もあるのを見かけました。これは何のためにあるのでしょうか。





INFORMATION

【 城山エコミュージアムツアーのお知らせ 】

テーマ：「葉山島の歴史と自然」
～湘南村と呼ばれた昔をさがして～



(姥石)

日時：2019.10.6(日) 9:00～15:00 予備日 10.13(日)
集合：城山公民館1階ピロティ (受付8:30～ 開会9:00～)
定員：30名 (先着順)
申込み 9.01～9.29まで 城山公民館 TEL 042-783-8194

行程

往路 公民館・徒歩・小倉諏訪の森 諏訪の森・路線バス・葉山島
→
復路 現地解散 藤木バス停 城山総合事務所下車又は橋本駅へ

※ 移動には一部路線バスを使用します。運賃は参加者負担です。

学習会予定表 (定例会開催時 9:00～9:40)

05/15	地球温暖化と森林の役割	11/06	庭の植物図鑑	* テーマ・予定日は変更になる場合が有ります。公民館にお問い合わせください。
06/12	カブトムシの生息調査	12/06	改元、令和について	
07/03	鳥居について	01/08	四季の歌	
08/07	葉山島の事前学習	02/12	自然に関わる話から	
09/04	生物に関わる話から	03/04	サクラあれこれ	
10/02	開発前の若葉台			

城山検定 解説

答え <防霜ファン>

これは、茶の新芽に霜が当たらないように、高い所から空気(風)を送って地表付近の冷え込んだ空気を動かして新芽を凍霜害から守るためのものです。

新芽の出る3～4月頃はまだ気温が安定せず、遅霜の恐れがあり霜に当たると葉の組織や細胞が凍ってしまい枯れる恐れがあります。(塩谷 弘道)



編集 後記

令和元年第1号をカラーで編集してみました。いかがでしょうか？

元号が令和に代った今、改めて城山の文化財をとりあげました。

縄文時代から引き継いだ貴重な文化財、環境を見える形(歴史公園など...)で、子孫に残すべきだと感じました。

私たち、みんなで考え実現したいですね。

(宮崎 紀美子)

企画/作成：

相模原市立城山公民館城山エコミュージアム委員会

発行：相模原市立城山公民館

TEL：042-783-8194【直通】

FAX：042-783-1721

ホームページをパソコンで見るとは

相模原市 城山エコミュージアム

検索



相模原市立城山公民館ホームページ <http://www.sagami-hara-kng.ed.jp/kouminkan/shiroyama-k/index.html>